

## 「2025年日本国際博覧会」のポップアップステージ（西）の一部に ホーロー外装材「エマウォール」が採用 屋根への使用など新たな用途へチャレンジ

システムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器メーカー・タカラスタANDARD株式会社（本社：大阪市城東区、代表取締役社長：小森大）は、「2025年日本国際博覧会（以下大阪・関西万博）」において、株式会社三井嶺建築設計事務所が設計業務を担う「ポップアップステージ（西）」にホーロー外装材「エマウォール」を提供し、サプライヤーとして協賛します。



「大阪・関西万博」では、若い世代の活躍・飛躍のきっかけとするため、会場内の「休憩所」「ギャラリー」「展示施設」「ポップアップステージ」「サテライトスタジオ」「トイレ」の計20施設の設計業務を、審査を経て選ばれた、今後の活躍が期待される若手建築家が担います。「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインコンセプトの下、SDGs（持続可能な開発目標）達成につながる、意欲的かつ大胆な提案をしてもらうことで、個性豊かで魅力的なさまざまな施設の創出が予定されています。タカラスタANDARDは、本事業の理念に共感し、株式会社三井嶺建築設計事務所が設計する「ポップアップステージ（西）」において独自のホーロー外装材「エマウォール」を楽屋と倉庫棟の外装建材として提供します。

「ポップアップステージ」は会場内に設置される予定の小規模ステージで、一般申し込みによるイベントなど、さまざまな催しに使用される予定の施設です。今回当社製品をご採用いただく「ポップアップステージ（西）」は、シンプルでありながらも人が集う目印になる、というコンセプトで設計されています。シンボルとなるのは水平に配置された皮付きの松の丸太。まるで宙に浮いているように見えるこの松の丸太は、参加者である『人』を目立たせながら、見た人の心に残り続ける狙いがあります。今回、インクジェット印刷による高精細なデザイン表現が可能であること、外装材としての耐久性にも優れている点をご評価いただき、ステージ横に設置される楽屋棟と倉庫棟の壁と屋根に「エマウォール」をご採用いただく運びとなりました。

「エマウォール」は通常、壁装材として使用する建材ですが、今回は屋根部分にも使用、設計者の意向により新たな止水方法にもチャレンジしています。従来、パネルの継ぎ目部分は、シーリング材と呼ばれる建築材料を用いて止水しますが、「大阪・関西万博」の“未来社会の実験場”というコンセプトを受け、壁・屋根ともに浸水した水を流す構造を採用しました。そうすることで、パネル同士の継ぎ目がシームレスになり、意匠性が高くなります。この止水方法やパネル形状については、今回の取組が製品化できる可能性があるかを検証し、その結果を今後の研究や製品開発の材料として生かしていくことを想定しています。

さらに、通常は下地材やパネルの取り付けは現場で行いますが、今回は施工業者である株式会社安井杵工務店のご協力もあり、工場で箱型に組み立てて現場へ運び入れる試みも行う予定です。

デザインは、“海と空を感じられる会場”という「大阪・関西万博」の基本計画の特徴の一つに沿って、海を連想させる青が基調になっています。迷彩柄に見えるのは、過去の万博開催国と大阪と友好都市提携を行っている都市を、南極の海岸線でトリミングしたもの。国境を気にせず切り取られているので、2つ以上の国が一つの柄として描かれている部分もあり、多様なものの混ざり合いや響き合いを表現しています。メンテナンス性や耐久性の高さといったホーローの特徴はそのままに、インクジェット印刷技術で設計者の意向に沿った繊細なデザインを施しました。



(完成イメージ)

その他2施設での「エマウォール」採用も予定していますので、詳細が決まり次第お知らせいたします。タカラスタンダードは、地元大阪で開催される「大阪・関西万博」を応援すると共に、未来を担う若手建築家やこれからの建設業界に貢献してまいります。

## 【参考資料】

### ①三井嶺（みつい れい）氏について

1983年愛知県生まれ。2006年東京大学工学部建築学科卒業。08年同大学大学院修士課程（日本建築史専攻）修了。08～15年坂茂建築設計。15年三井嶺建築設計事務所設立。

受賞歴／17年 Under 35 Architects exhibition 2017 35歳以下の若手建築家による建築の展覧会最優秀賞、21年住宅建築賞 2021入賞。

<https://reimitsui.com>



### ②三井嶺氏コメント

ステージは、人が集う目印があれば十分ではないでしょうか。鳥居やストーンヘンジのような門型にみられるように、柱2本が人間の作る場の最小単位のひとつです。しかし、それよりもシンプルな状態、例えば梁が一本でも十分ではないかと考えました。梁は松の皮付き丸太。たった一本でも場をつくる堂々とした力強さと優しさを持ちます。梁の上に載る屋根は形をとどめずシーソーのようにパタパタと動いて緞帳代わりとし、祝祭を盛り上げます。そして、屋根は松葉葺き。会期中に松葉の青々しさを保つためには、多数のボランティアが必要です。皆が参加し当事者となることによって、本来の祝祭のあるべき姿を取り戻せるでしょう。ごく簡素ながら、祝祭の場にふさわしい、新たな原初性をもつ建築を作ります。

また、楽屋棟と倉庫棟の外装にはホーローを使用します。耐久性が高く、何より質感が上品な素材として、ホーローには元々関心を持っていました。インクジェット印刷を用いることで、精度の高いデザイン表現が可能だと思い、今回の採用に至りました。意匠面、性能面でも優れているホーローは、これからの建築素材として大きな可能性を秘めていると思います。

### ③「ポップアップステージ（西）」概要

- ・敷地面積：399㎡ / 延床面積：90㎡
- ・ホーロー使用面積：132㎡
- ・施工：株式会社安井杵工務店（京都府向日市）

### ④その他の採用施設

- ・トイレ8

[https://www.takara-standard.co.jp/files/news/press\\_release/RELEASE\\_20240730.pdf](https://www.takara-standard.co.jp/files/news/press_release/RELEASE_20240730.pdf)

#### <タカラスタンダードとは>

1912年創業。「水まわりつて、大切だから」をブランドメッセージに、独自の「高品位ホーロー」技術を活かしたシステムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器を製造販売。より高度化、多様化、複合化するお客さまのニーズにお応えするホーロー技術のリーディングカンパニーとして、また住宅設備機器のトップメーカーとして、次世代を担う新たなホーローの可能性を追求し、快適な暮らしの創造を目指しています。

[設立：1912年5月30日（創業112年） / 売上高<連結>：2,347億円（2023年度） / 従業員数<連結>：6,616名（2023年3月末時点）]